

研究主題 「主体的に学び合う子どもを育てる

道徳教育の充実を目指して」

～多様性を意識して他者との関わりを深める授業実践を通じた
心の豊かな子の育成～
和光市立第五小学校

1 研究主題の設定理由

平成 29 年の学習指導要領改訂の際、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難になってきていることが指摘されたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、その指摘が現実のものとなってきている。すでに到来しつつある Society5.0 時代において、社会が急速に変化し、学校教育においても、この変化を前向きに捉え、豊かな人生を自ら切り拓くことができるような資質・能力の育成が求められている。

このような学校教育の変化の中にあっても、豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやりといった心の教育は、変わらずに重要であり、困難を乗り越え、物事を成し遂げるためには、むしろ、その重要性が増していると捉えている。そこで、本校では道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて主体的に学び合う道徳教育の充実を図っていく必要があると考えた。特に、道徳科において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図り、他者との関わりを深める授業実践を核とした心の教育と併せて研究・実践していくことで、児童の豊かな心の育成につながるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 「考える」「議論する」をキーワードとして、主体的・対話的で深い学びへとつながる授業構想を実践すれば、自己の生き方についての考えを深めることができ、心の豊かな子を育成できるであろう。（授業研究）
- (2) 道徳科を核とした校内環境を整備するとともに、学びをつなぐ他教科等のカリキュラム・マネジメントを推進すれば、道徳的实践につなげることができ、心の豊かな子を育成できるであろう。（環境整備）
- (3) 児童の実態から目指す児童像や重点目標を設定し、家庭・地域社会と方向性を共有する取組を推進すれば、広い視野から道徳的实践意欲を高めることができ、心の豊かな子を育成できるであろう。（調査啓発）

3 研究の経過

時 期	内 容
4～7月	各ブロック等で授業研に向けての協議 道德教育を軸とするカリキュラム・マネジメントの計画・立案実行
8月	押谷由夫先生を講師に招いての理論研修
9～10月	各学年での授業研究会・カリキュラムマネジメントの推進
11月	埼玉県道德教育研究推進モデル校研究発表大会
2月	研究成果の検証

4 研究の内容

(1) 授業研究部

○教科等融合型大主題学習の理論の確立

武庫川女子大学大学院教授押谷由夫先生をお招きし、総合単元的道德学習のご教授をして頂くと共に、本校の教科等融合型大主題学習のご指導をして頂いた。ご指導を頂いたことを基に、授業研究部では道德科の授業で学ぶ教材の内容を検討した。教材は内容項目における教科書教材を扱うことは大切である。さらに、各教科等で学習する内容が関連し、道德科の授業の内容がきっかけとなって総合的な学習の時間の活動となることも大切である。それには自作教材の作成に取り組む必要がある

と考えた。この自作教材からも児童は意欲的に教科等融合型大主題学習に取り組むことができ、さらに道德的価値の善さを自覚することができた。

○教科等融合型大主題学習における授業実践的研究

令和2・3年度までの研究を職員全員が理解できるよう、授業実践を発表することで共有した。これにより、大主題はもとより、本校で取り組んできた道德授業の展開などの理解を全職員が深めることができた。また、彩の国「二つのアサガオ」を活用したことで児童が自我関与しながら道德的な問題に取り組むことができた。

2. 総合単元的道德学習が目指すもの

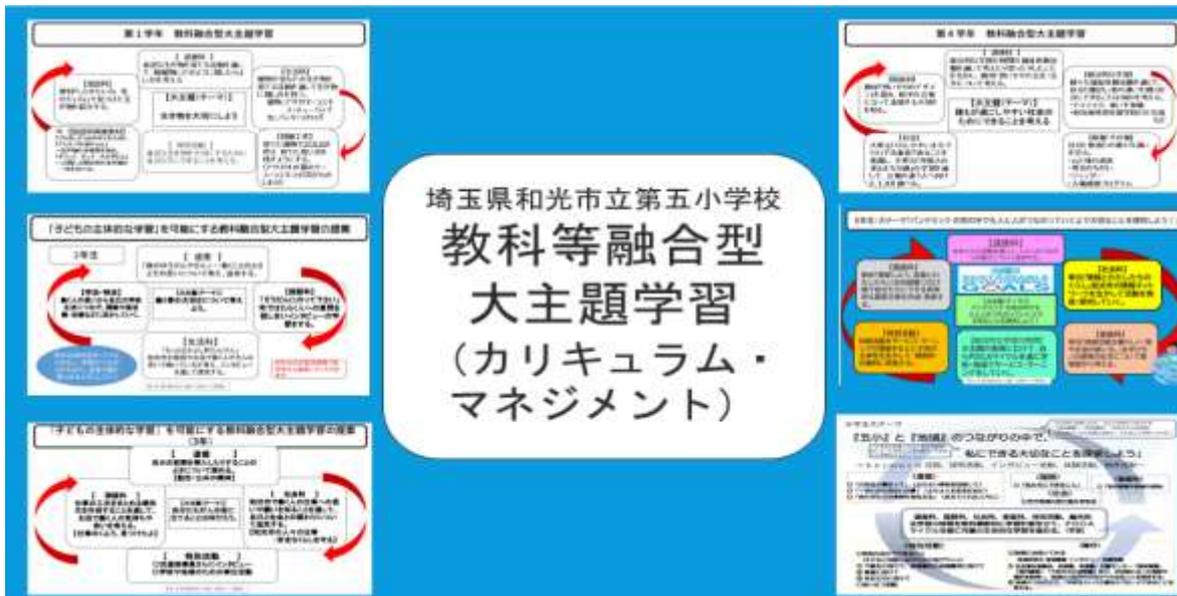
- 子どもを主体とした道德学習の確立
子どもたちができるだけ主体的に計画・準備・実行し、発展させていく。道德学習を創っていく。
- 各教科、特別活動、総合的な学習の時間における道德教育の醸成
各教科等の指導も「特別の教科 道德」の指導も、それぞれの固有の目標の達成をより充実させることができる。
- 道德性の内面的質を多面的に育む
道德的心情、道德的判断力、道德的実践意欲と態度を中心として（「特別の教科 道德」での計画的・体系的指導）、道德的知識（各教科、総合的な学習の時間等）、道德的実践方法（特別活動、総合的な学習の時間等）も含めて多面的に育めるようにする。
- 学校教育の中核となる道德教育の確立
人格の基盤となるのが道德性であり、その道德性の育成を図るのが道德教育である。したがって、学校教育の中核として道德教育を展開していくには、学校経営や中核経営のなかで明確に位置づけるような価値観が必要である。
- 今日的、将来的課題に応える道德学習の確立
今日的、将来的課題は、全て、これからの社会の中でどう生きていくにかかわるものである。どう生きるにかかわる道德的価値意識の深まりを中核として知的な学習や実践的な学習を通して課題に対応できる力を育む必要がある。

④学年・ブロックで力を入れたこと	<p>① 福祉体験との関連 導入では、支援学校との交流を振り返り「親切」について考えた。 「困っていたら、なんでも助けてあげる」→本当の親切なのかな？</p> <p>② 具体的な事例を取り入れた日常生活との関連づけ 終末では、中学生が「すみません」と言いながら人混みをかき分ける車椅子の人の様子を書いた作文を通して、自分ならどうするかを考えた。</p> <p>③ レベルアップタイムを生かした意見の活発化 自分の考えを「持つ・表現する」周囲の考えによる「変容」</p>
------------------	--

前年度の学年・ブロックで力を入れたところを共有することで、今年度、同じように力を入れ、積み重ねる必要のある能力はどこか、などの確認ができた。

(2) 環境整備部

○総合単元的な道徳教育の構想・実践



各学年の発達段階や道徳教育の重点等から大テーマを設定し、道徳科を要とした教育活動のまとまりを構想し、実践を行った。具体例として、5年生は「思いやり・親切」をテーマにして総合的な学習の時間や社会科、家庭科などに関連させて学びを深める構想で実践した。3年間の系統的な実践として本カリキュラムを経験した中学生との連携を図り、また、地域の幼稚園、保育園、特別支援学校、公民館等と連携を図り、新型コロナウイルス感染症を配慮しつつも、交流することで児童の活動に広がりが見られ、振り返り等の記録から児童の道徳性の高まりを感じることができた。

○「レベルアップタイム」の計画・実施

「レベルアップタイム」とは、毎週木曜日、業前の15分間を使って、設定したテーマに対し、理由をつけて自分の考えをお互いに交流する活動である。経験の浅い先生でも授業の流れがわかるようにマニュアルを作成し共有化を図った。

またテーマを児童と共に創ったり、教材から考えたりした問いを職員が共有できるフォルダーに書き込んで全職員で共有できるようにした。

児童の興味関心から問いづくりを行ってきたことで、教室で発言することに抵抗感を感じることなく安心して発言する児童が増えた。

【テーマの例】「学習するなら音楽と図工のどちらがよいか。」

①8:30～8:35 ワークシートの配付・貼り付け・記入

②8:35～8:40 自分の考え・理由の発表

【例】「音楽派の人、手を挙げて」「音楽派の理由を発表してもらいます」
「図工派の人、手を挙げて」「図工派の理由を発表してもらいます」
→一人ひとり発表 or 举手した児童

③8:40～8:43 考えを受けて深める時間

【例】「ぼくは図工派で、絵が好きだから選んだのだけど、音楽派の歌が好きだからという話を聞いて、音楽もいいと思った。」
「音楽も図工も楽しい学習という考えは同じだと思った。」
→相手の考えから、自分の考えを変えたり、広げたり、強調したりする。
考えを比較し、共通点や相違点を見つける。

④8:43～8:45 振り返り(自己評価)・回収

異動したての教師や若い教師でも、簡単に進められるようにマニュアルを作成した。

